

令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施]

※（ ）内の％表示はいずれも（R3→R4）をあらわす

〔回収率〕

〔生徒（73.6%→63.5%）〕〔保護者（58.4%→41.7%）〕〔教員（100%→100%）〕 回収率を向上させるため、生徒は1人1台端末を用いたフォーム作成ツールによる回答を、保護者は三者懇談時の回答を試みたが、年末の実施が原因か欠席や不参加が多く、回収率の向上に至らず。更なる工夫の検討と実践が必要。

【学習指導等】

- ・生徒「わかりやすい授業が多い」（64.1%→78.7%）
- ・保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」（69.9%→67.5%）
- ・教員「教材の精選・工夫を行っている」（96.2%→100%）、「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」（96.2%→95.9%）
授業内容・方法等の改善について意識を持って取り組んだ結果「わかる授業」の実現に一步前進した。更なる授業改善等を進めていく。

【生徒指導等】

- ・生徒「学校に行くのが楽しい」（60.9%→70.5%）、「先生は生徒達のことをよく見て対応してくれる」（81.5%→83.6%）、「先生の指導には納得できる」（72.9%→77.0%）、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」（69.6%→82.0%）、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」（73.9%→75.4%）
- ・保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」（87.7%→97.5%）、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」（94.5%→95.0%）、「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」（89.0%→97.5%）、「学校は子どもに生命を大切にやる心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」（82.2%→97.5%）、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」（89.0%→100%）
- ・教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」（92.3%→91.7%） 保護者との連携を密にしながら生徒に寄り添った指導等を行うことができた。生徒が更に楽しく安心して学校生活を送れるようになるために、引き続き保護者との連携を密にしながら生徒に寄り添った指導等を継続していく必要がある。

【学校運営】

- ・教員向け学校教育自己診断における学校運営についての肯定率（76.4%→83.3%）今年度は教職員の「声」に傾聴することに徹した。次年度は、准校長のリーダーシップのもと教職員の適性・能力に応じた校内人事等を行い、誰もがやりがいを感じられる学校運営を推進する。

【まとめ】

次年度は「生徒の居場所づくり」「わかりやすい授業」「進路指導」「学校施設・設備の充実・整備」等について重点的に取り組む必要があると考えている。